

陳也、誠國初以來所未聞、國家一大災、人民一大厄也、九月、縣官命有司、修築大水所壞堤防、乃命肥後侯備前侯長門侯伊賀侯福山侯圓龜侯出石侯飯飯當肥侯白杵侯鯖江侯磐國子助工役、役數十萬人、費數十萬金、半歲功成、亦國初以來一大事也。

〔紫芝園漫筆八〕寬保三年癸亥十一月、彗星見于東壁、光芒斜指奎、二旬稍衰、至十二月十八日復甚明、長大倍前、連夕不衰、至明年正月朔夕、又增光明、形益長大、過元宵乃佚而不見、初見時在東壁二星之中、後稍移、而西北向營室下星、最後切近營室下星、而光指東壁上星、凡見者前後五旬而伏、

〔春波樓筆記〕文化八年未七月立秋の頃より、彗星初昏西北の方北斗の上に、大尊と太陽守との間に麗りて、尾の光芒長からず、亦曉東西に現れて、尾の光芒長し、白露秋分寒露霜降立冬と漸々南東に昇りて、尾も長く、天頂を過ぎて、小雪大雪頃に至りて、河鞍の少し上に留まりて、尾も漸々短く、冬至の頃に天に昇りて、竟に肉眼に見えず、又巳の年に彗星現れし時は、天頂より少し西によりて、光芒も至りて薄し、初昏より戌の時頃まで見えて、西に落ちて、二十餘日を経て天に昇る、彗星、孛星天上にある事、其の數を知らず、亦行環も悉く異なりて、黃道より斜絡して、其の環亦楕圓なり、西洋人といへども、いまだ推歩窮理せざる者乎、

〔續視聽草 二集二〕彗星考

土御門陰陽權助

從七月下旬、晨昏彗星出現於翼宿之度、去北斗一丈餘、在太微垣之屬星、常陣星、紫微垣之屬星、相星等之側、光芒東指、其長七尺餘、戌刻後沒、乾隅寅刻後出、長隅、是近入北極、故入地之淺、而周天之速也、到今月夜々陰晴不定、委難測得、二日之夜所見、聊東進、五日之夜去翼宿移軫宿、初在北斗第二三星之下、戌刻已沒、今移第四五星之下、戌刻猶未沒、是依東進、昏遲沒晨亦出、遲出而已、更無犯太微紫微之兩垣、天文大成曰、紫微垣者、天子之大內、太微垣者、天子之正朝、云々、今雖近兩垣、無犯入者、強無其恐歟、天經或問云、彗久不散者、隨天轉、又云、晨見東方、芒則西指、夕見西方、芒則東指、彗星者、火氣挾土